

はじめに

きもの業界の苦境に反して、街できもの姿を見る機会は明らかに増え続けています。業界は不況でも街角は活況なのです。こうした現象は全国的に広げられないかもしれませんが、この秋の観光シーズンでは、きものを着た若者や訪日外国人をあちこちで見受けることでしょう。それにしても、業界と街角の現象の極端な乖離は、何を意味するのでしょうか。

きもの需要には、フォーマルとカジュアル、所有と消費、儀式と普段、高額とリーズナブル、ユニフォーム的とファッション的、セルとレンタル—など対立する二項の要因に分けることが出来ます。「フォーマルとカジュアル」でいえば、きものの着用シーンは、産着に始まって七五三、十三参り、成人式、結婚、お受験、PTA、観劇・パーティーなどの通過儀礼着が挙げられます。これらをきものフォーマルシーンと呼べば、恋人や友人との街歩きや気軽なお呼ばれに着ていく普段着に近い着方のきものカジュアルシーンがあります。最近、特に目立つ国内外の観光客が観光先で着るきもの着用などもこれに含まれるでしょう。「所有と消費」の区別では、きものは着るために求めるという、当たり前の「消費」欲求の一方で、高額商品だけに、持つことの「所有」欲求から起こる消費があります。これ以降の2項対立項—儀式と普段、高額とリーズナブル、ユニフォーム的とファッション的—なども、これによく似た要素に起因しているといえます。

最近のきもの消費では、前者より後者の要因にバイアスがかかっています。「所有」より「消費」に「儀式」より「普段」に、「高額」より「リーズナブル」に、「ユニフォーム的」より「ファッション的」に消費のウエイトが傾いているのです。こうした消費トレンドの変化をもっとも強く反映するのが「セル」から「レンタル」への流れです。きものを買うことからきものを借りることへ。顕著な現れは七五三や成人式の振袖需要です。どちらも親がかり（祖父母がかり）の要素の強い商品でしたが、レンタル需要のウエイトが高まって、いまでは、全体の7～8割がレンタル需要で占められているとみられます。この他、内外観光客が街角散策で着用するきものや、気軽なパーティー着やおしゃれ着などもレンタル需要が多くを占めます。むしろ、気軽で低価格のレンタルがあってこれらのきもの着用シーンが広がっているとも言えます。

つまり、街角の活況と業界の不振の乖離現象は、こうしたきもの消費の変化を表しているといつて間違いは少ないと思われます。そしてこの現象は乖離ではなく、きもの市場全体の流れとして、融合的に見る必要があるのではないのでしょうか。本格的な高級きものみを「きもの」とする狭い見方に固執したり、若者やインバウンド客のきもの姿を「きものとは呼べない」などと眉を顰めるばかりでは、街角と業界の乖離現象は解消しません。所有と消費、フォーマルとカジュアル、セルとレンタルなど、きものが含む消費の要因を二項対立的に見るのではなく、両者の融合点を探っていくことにきもの振興の道が開けるのではないのでしょうか。「和ブーム」、つまり日本文化への世界の関心が深まっています。2013年12月に「和食」がユネスコの世界無形文化遺産に登録されたのを始め、「クールジャパン」の名で、日本の日常の暮らしに込められた習慣や道具、風俗への関心が深まっているのもその表れです。更に言えばこのところの訪日外国人観光客の急増ぶりにも、日本の文化への関心の深まりを抜きにしては説明が付きません。

基本方針

1. 既存事業を見直し、効果的な振興事業を模索する。
2. 「第11回きもの文化検定」の受験者の拡大と効率的運営に努める。
3. 組織の充実に努める。
4. 事務局機能の強化と運営の効率化に努める。

I 事業計画（案）

1 知識普及事業

- (1)「第 11 回きもの文化検定」の実施
- (2)「きもの学」の開講
- (3)学校教育和服着装事業
- (4)「きものコンサルタント」育成事業
- (5)21 世紀の和装教育を考える—和装教育への 5 つの提言の実現化の研究事業

2 宣伝啓発事業

- (1)「きものの女王大会（地区）」事業への助成と支援
- (2)宣伝普及事業
- (3)共催・後援・協賛
- (4)「和装振興協議会」への参画
- (5)「未来国宝プロジェクト」への参画
- (6)「きものの日」のきもの着用の呼びかけ
- (7)「ユネスコ無形文化遺産」登録への協力

3 調査広報事業

- (1)調査事業
- (2)広報事業

4 会員対策事業

- (1)組織強化活動
- (2)地域ネットワークの構築
- (3)表彰
- (4)慶弔
- (5)50 周年記念